

新庁舎建設事業

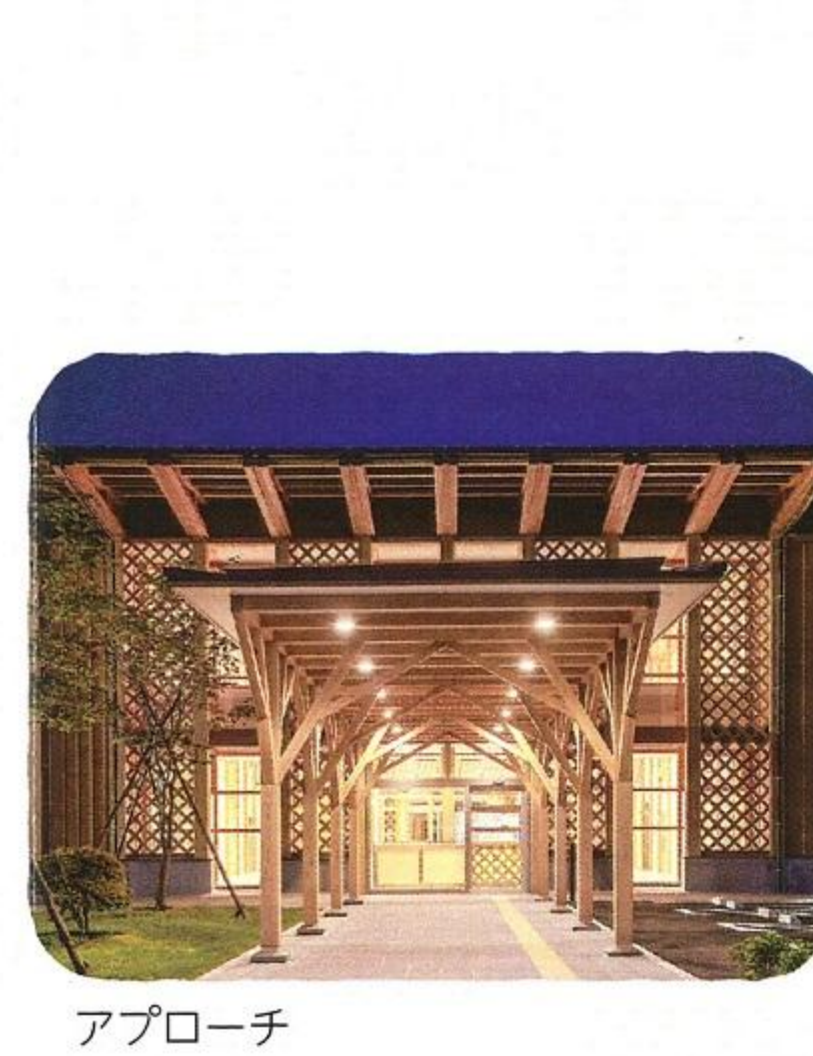
住田町は、昭和30年の世田米町、上有住村、下有住村の一町二村の合併以来、これまで多くの先人の方が英知を結集され、風土の中で培われてきた薫り高い文化、伝統と恵まれた自然を生かし、心を一つにして、豊かで住み良いまちづくりを推進して参りました。この間、時代の大きなうねりの中、幾多の試練を乗り越え、産業の振興、教育・福祉の向上、生活基盤の整備に努め、着実に一步一步、前進して参りました。

昨今におきましては、町民の財産であるかけがえのない豊富な山林資源、緑と水を未来に引き継ぐ「森林・林業日本一の町づくり」を目指しているところであり、川上から川下までの一貫した林業の循環システムを構築するとともに、森林認証や木質バイオマスエネルギーの取組みなど、新たな産業創出による地域振興の推進に取り組んでおります。

現役場庁舎は合併後の昭和32年度に建設されたものでありますが、近年の行政需要の増大とともに手狭となり庁舎が分散し、また、老朽化が進んでいることから、築後35年を経過した平成5年度から新たな庁舎建設に向けての基金の積立が開始されたところであり、その後、基金の積立が順調に進み、建物も50年を迎えることから、平成18年度から新庁舎建設の検討を開始いたしました。

このような中、東日本大震災が発生。50年以上経過した役場庁舎は町の中核施設としては危険で、十分な機能を果たし得ない状況にありました。

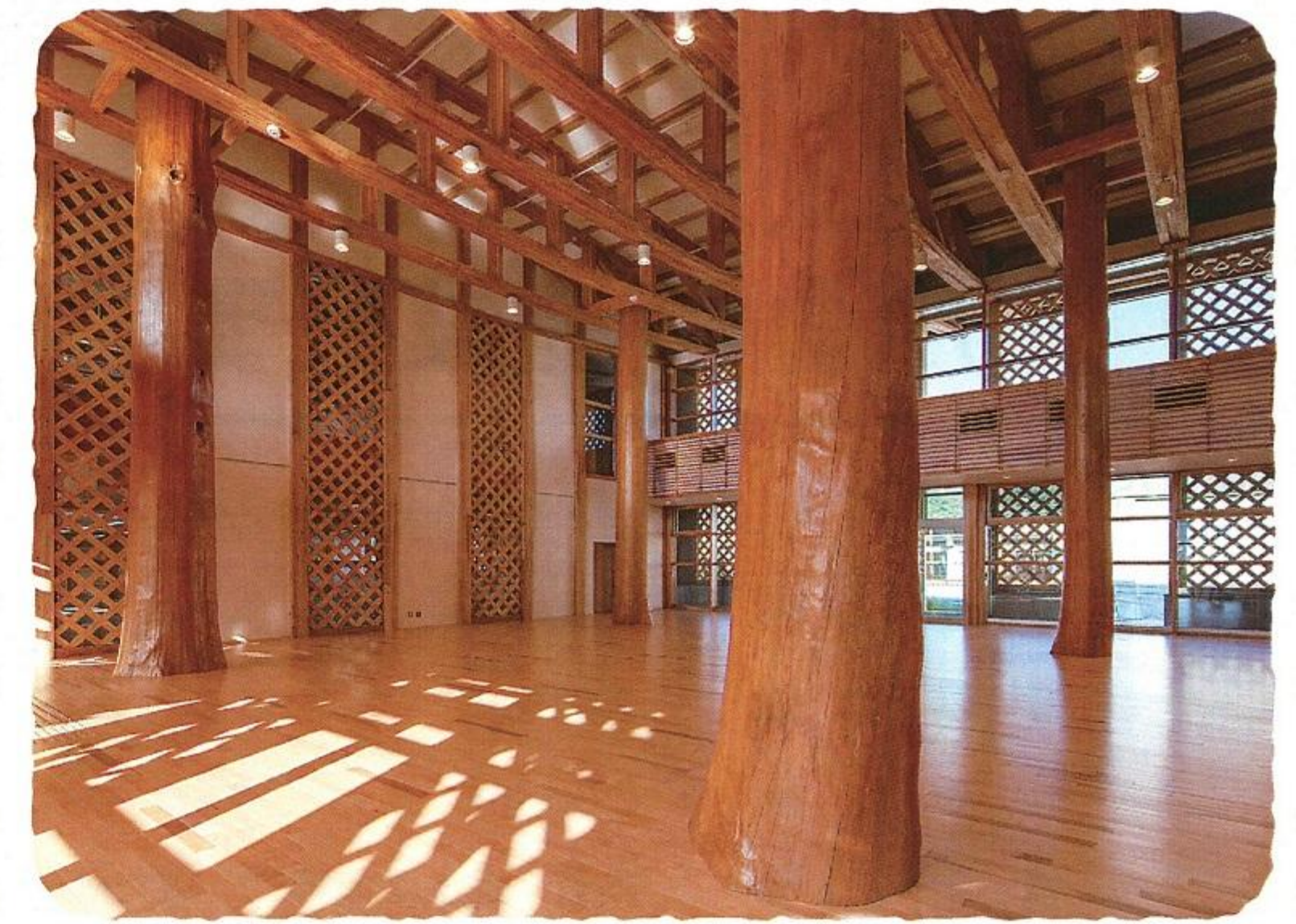
この様な経過を踏まえ、災害対策や防災の観点から、役場新庁舎の建設が急務とされ、平成24年3月に「役場庁舎建設基本計画」を策定、平成24年度から新庁舎建設事業に着手したものであります。



アプローチ



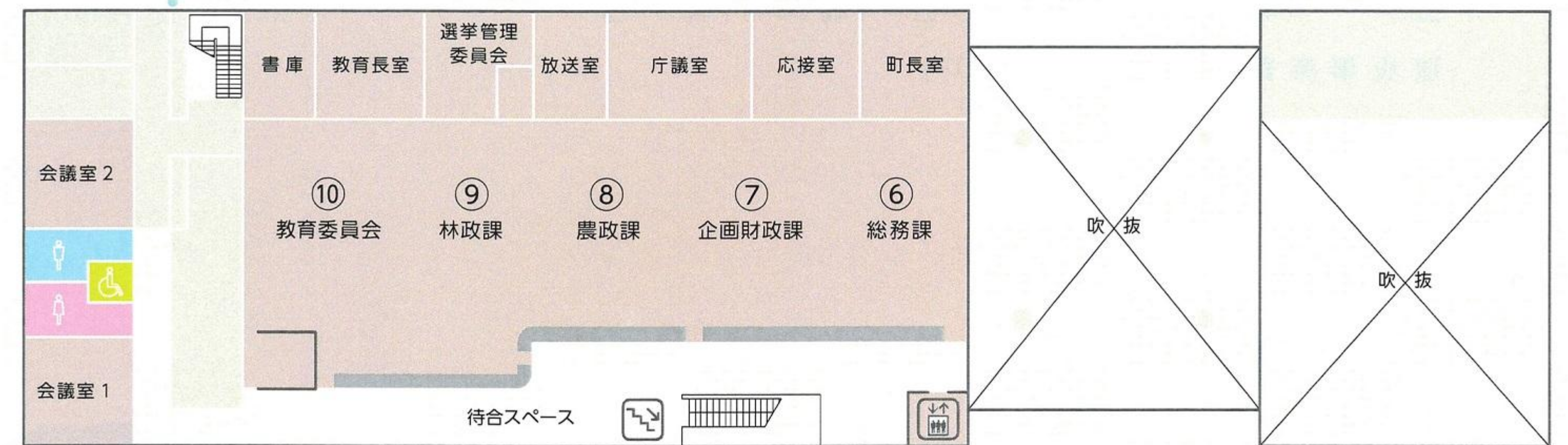
応接室



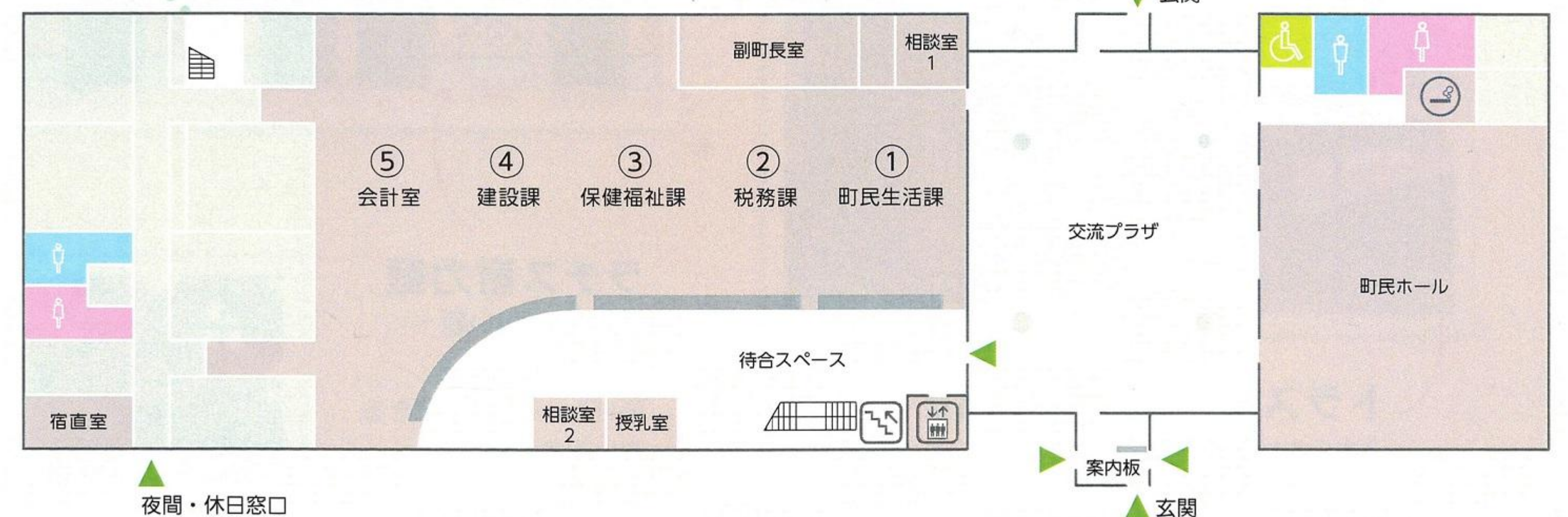
交流プラザ



2F



1F



● 交流プラザ

交流プラザには4本の象徴木(スギ)があり、庁舎のシンボルとなっています。イベント開催など町民のみなさんが様々な活用ができます。

● 町民ホール

会議や研修会に利用できます。音響、AV機器も利用できます。災害発生時には支援物資保管場所などに利用できます。

新庁舎のコンセプト

1. 人にやさしく親しまれる庁舎

- **ワンストップサービス**
周辺施設に分散した課の機能を集約。手続きがしやすい
- **ユニバーサルデザイン**
多目的トイレ、授乳室・キッズスペース案内表示、点字ブロックなど
- **住民交流スペース**
交流プラザ、町民ホール、町民広場

2. 環境にやさしく防災の要となる庁舎

- **再生可能エネルギーの導入**
木質ペレットボイラーによる冷暖房
- **省エネルギー設備の導入**
自然換気、LED照明、ソーラー外路灯
- **防災拠点機能の充実、後方支援拠点機能の強化**
耐震強度 1.5倍、準耐火構造(45分耐火構造)
災害時の避難や物資搬入を想定した町民ホール、防災広場としての町民広場
太陽光発電・自家発電設備

3. 住田町らしさを発信する庁舎

- 森林・林業日本一を目指す本町にふさわしい木造公共建築物
- 町の歴史・文化・産業などの情報発信スペースの設置(交流プラザ)

1階にはオストメイト機能付きの多機能トイレ、待合スペースには授乳室があります。